

本資料のうち、枠囲みの内容は、  
営業秘密又は防護上の観点から  
公開できません

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-498 改6
提出年月日	平成30年10月4日

日本原子力発電株式会社  
東海第二発電所 工事計画審査資料  
放射性廃棄物の廃棄施設  
気体、液体又は固体廃棄物処理設備  
液体廃棄物処理系  
(機器ドレン処理系)

(本文)

## 放射性廃棄物の廃棄施設

### 2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備

#### 2.2 液体廃棄物処理系

##### 2.2.1 機器ドレン処理系

###### (2) ポンプ

- a. 廃棄物処理棟機器ドレンサンプポンプ
- b. 廃液フィルタ保持ポンプ
- c. プリコートポンプ

###### (4) 容器

- a. 廃液収集タンク
- b. サージタンク
- c. 凝集装置供給タンク
- d. 凝縮水サンプルタンク
- e. 廃棄物処理建屋機器ドレンサンプタンク
- f. 電磁ろ過器供給タンク
- g. 機器ドレン処理水タンク
- h. プリコートタンク
- i. 格納容器機器ドレンサンプ

###### (8) ろ過装置

- a. 電磁ろ過器
- b. 超ろ過器
- c. 廃液フィルタ

###### (9) 主要弁

###### (10) 主配管

## 2.2 液体廃棄物処理系

### 2.2.1 機器ドレン処理系

- (2) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力（真空ポンプにあっては到達真空度）、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数並びに原動機の種類、出力及び個数

			変更前	変更後	
名 称			廃棄物処理棟 機器ドレンサンプポンプ		
ポ ン プ	種 類	—	うず巻形*1		
	容 量	m <sup>3</sup> /h/個	<input type="text"/>	(11.9*3)	
	揚 程*4	m	<input type="text"/>	(22*3)	
	最 高 使 用 圧 力	MPa	0.28*5		
	最 高 使 用 温 度	℃	65*5		
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	80*2, *3	
		吐 出 口 径	mm	40*3, *6	
		コ ラ ム 外 径	mm	135*2, *3	
		高 さ	mm	3705*3, *6	
	材 料	ケ ー シ ン グ*7	—	FC25	
個 数	—	2			
原 動 機	種 類	—	誘導電動機*8		
	出 力	kW/個	3.7		
	個 数	—	2		

変更なし

- 注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「立軸多段うず巻ポンプ」と記載。  
 \*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*3：公称値を示す。  
 \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。  
 \*5：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-2-2 液体固体廃棄物処理施設の耐震性についての計算書」のうち、「Ⅲ-2-2-1 設計条件」による。  
 \*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-23図 ポンプ外形図 組立断面図（立軸型ポンプその1）」による。  
 \*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。  
 \*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

			変更前	変更後	
名 称			廃液フィルタ保持ポンプ		
ポ ン プ	種 類	—	うず巻形*1		
	容 量	m <sup>3</sup> /h/個	<input type="text"/>	(26.2*3)	
	揚 程*4	m	<input type="text"/>	(21.6*3)	
	最 高 使 用 圧 力	MPa	1.32*5		
	最 高 使 用 温 度	℃	100*5		
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	80*3, *6	
		吐 出 口 径	mm	80*3, *6	
		た て	mm	105*3, *6	
		横	mm	525*3, *6	
		高 さ	mm	380*3, *6	
材 料	ケ ー シ ン グ*7	—	FC25		
個 数	—	2			
原 動 機	種 類	—	誘導電動機*8		
	出 力	kW/個	5.5		
	個 数	—	2		

撤去\*9

- 注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻ポンプ」と記載。
- \*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*3：公称値を示す。
- \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。
- \*5：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-2-2 液体固体廃棄物処理施設の耐震性についての計算書」のうち、「Ⅲ-2-2-1 設計条件」による。
- \*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付図面「第3-27図 ポンプ外形図組立断面図（横軸型ポンプその3）」による。
- \*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。
- \*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。
- \*9：本設備は、手続対象外である。

			変更前	変更後	
名 称			プリコートポンプ		
ポンプ	種類	—	うず巻形*1		
	容量	m <sup>3</sup> /h/個	<input type="text"/>	(100*3)	
	揚程*4	m	<input type="text"/>	(19.0*3)	
	最高使用圧力	MPa	0.27*2		
	最高使用温度	℃	65*2		
	主要寸法	吸込口径	mm	150*3, *5	
		吐出口径	mm	125*3, *5	
		たて	mm	650*3, *5	
		横	mm	955*3, *5	
		高さ	mm	750*3, *5	
材料	ケーシング*6	—	FC25		
個数	—	2			
原動機	種類	—	誘導電動機*7		
	出力	kW/個	11		
	個数	—	2		

撤去\*8

- 注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻ポンプ」と記載。
- \*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*3：公称値を示す。
- \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。
- \*5：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付図面「第3-28図 ポンプ外形図組立断面図（横軸型ポンプその4）」による。
- \*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。
- \*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。
- \*8：本設備は、手続対象外である。

(4) 容器の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

		変更前	変更後		
名 称		廃液収集タンク			
種 類	—	たて置円筒形*1			
容 量	m <sup>3</sup> /個	<input type="text"/> (113.5*3)	変更なし		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*4			
最 高 使 用 温 度	℃	65			
主 要 寸 法	胴 内 径*5	mm		4400*3	
	胴 板 厚 さ*6	mm		<input type="text"/> (8*3)	
	鏡 板 厚 さ*8	mm		<input type="text"/> (10*3)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm		4400*3, *7 (鏡板中央部内半径)	
				440*3, *7 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm		4.5*3, *9	
	出 口 管 台 外 径	mm		114.3*3, *7	
	出 口 管 台 厚 さ	mm		<input type="text"/> (6.0*3, *7)	
	入 口 管 台 外 径*10	mm		114.3*3, *11	
	入 口 管 台 厚 さ*10	mm		6.0*3, *11	
	入 口 管 台 外 径*12	mm		89.1*3, *11	
	入 口 管 台 厚 さ*12	mm		5.5*3, *11	
	入 口 管 台 外 径*13	mm		76.3*3, *11	
	入 口 管 台 厚 さ*13	mm		5.2*3, *11	
	入 口 管 台 外 径*14	mm		89.1*3, *11	
入 口 管 台 厚 さ*14	mm	5.5*3, *11			
高 さ	mm	8568.5*3, *15			
材 料	胴 板*16	—		SM41A*17	
	鏡 板	—		SM41A*17	
個 数	—	1			
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法		—	—		

- 注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。
- \*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ 計算書および説明書」による。
- \*3：公称値を示す。
- \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。
- \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
- \*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
- \*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-1 廃液収集タンク」による。
- \*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
- \*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-1図 廃液収集タンク構造図」による。
- \*10：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。管台符号は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-1図 廃液収集タンク構造図 ノズル表 E」を示す。
- \*11：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*12：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。管台符号は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-1図 廃液収集タンク構造図 ノズル表 G」を示す。
- \*13：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。管台符号は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-1図 廃液収集タンク構造図 ノズル表 L」を示す。
- \*14：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。管台符号は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-1図 廃液収集タンク構造図 ノズル表 N」を示す。
- \*15：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7700」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-1図 廃液収集タンク構造図」による。
- \*16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- \*17：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

		変更前		変更後	
名 称		サージタンク		変更なし	
種 類	—	たて置円筒形*1			
容 量	m <sup>3</sup> /個	[ ] (142*3)			
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*4			
最 高 使 用 温 度	℃	65			
主 要 寸 法	胴 内 径*5	mm	5000*3		
	胴 板 厚 さ*6	mm	[ ] (8*3)		
	鏡 板 厚 さ*8	mm	[ ] (9*3)		
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	5000*3, *7 (鏡板中央部内半径)		
			500*3, *7 (鏡板隅の丸み半径)		
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm	4.5*3, *9		
	出 口 管 台 外 径	mm	114.3*3, *7		
	出 口 管 台 厚 さ	mm	[ ] (6.0*3, *7)		
高 さ	mm	8583.5*3, *10			
材 料	胴 板*11	—	SM41A*12		
	鏡 板	—	SM41A*12		
個 数	—	2			
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—			

- 注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。
- \*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ 計算書および説明書」による。
- \*3：公称値を示す。
- \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。
- \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
- \*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
- \*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-2 サージタンク」による。
- \*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。



- \*9 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-2図 サージタンク構造図」による。
- \*10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7600」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-2図 サージタンク構造図」による。
- \*11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- \*12 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変更前	変更後
名 称		凝集装置供給タンク		
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量	m <sup>3</sup> /個	[ ] (81.4*3)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*4		
最 高 使 用 温 度	℃	65		
主 要 寸 法	胴 内 径*5	mm	4900*3	
	胴 板 厚 さ*6	mm	[ ] (9*3)	
	鏡 板 厚 さ*8	mm	[ ] (10*3)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	4900*3, *7 (鏡板中央部内半径)	
			490*3, *7 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm	4.5*3, *9	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 外 径	mm	60.5*3, *7	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 厚 さ	mm	[ ] (3.9*3, *7)	
高 さ	mm	5485.5*3, *10		
材 料	胴 板*11	—	SM41A*12	
	鏡 板	—	SM41A*12	
個 数	—	1		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—		

変更なし

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

\*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ 計算書および説明書」による。

\*3：公称値を示す。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

\*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-3 凝集装置供給タンク」による。

- \*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
- \*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-4図 凝集装置供給タンク構造図」による。
- \*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「4520」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-4図 凝集装置供給タンク構造図」による。
- \*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- \*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変更前	変更後
名 称		凝縮水サンプルタンク		
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量	m <sup>3</sup> /個	[ ] (64.2*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*3		
最 高 使 用 温 度	℃	65		
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	4400*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	[ ] (10*2)	
	鏡 板 厚 さ*7	mm	[ ] (13*2)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	4400*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			440*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	屋 根 厚 さ	mm	6*2, *8	
	高 さ	mm	5540*2, *9	
材 料	胴 板*10	—	SM41A*11	
	鏡 板	—	SM41A*11	
個 数	—	1		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—		

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

\*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日

付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-8図 凝縮水サンプルタンク構造図」による。

\*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「4300」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-8

図 凝縮水サンプルタンク構造図」による。

\*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

\*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変更前	変更後
名 称			廃棄物処理建屋 機器ドレンサンプタンク	変更なし
種 類	—		たて置円筒形	
容 量	m <sup>3</sup> /個		<input type="text"/> (8.2* <sup>1</sup> )	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1700* <sup>1</sup>	
	胴 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (10.0* <sup>1</sup> )	
	鏡 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (10.0* <sup>1</sup> )	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	1700.0* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup> (鏡板中央部内半径)	
			170.0* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup> (鏡板隅の丸み半径)	
	オーバフロー入口 管 台 外 径	mm	165.2* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup>	
	オーバフロー入口 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (7.1* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup> )	
高 さ* <sup>3</sup>	mm	3740* <sup>1</sup> , * <sup>4</sup>		
材 料	胴 板	—	SUS304	
	鏡 板	—	SUS304	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法* <sup>5</sup>		—	液位高によるポンプ1台目 自動起動回路 液位高高によるポンプ2台目 自動起動回路	

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付書類「V-2-2-1-1 機器ドレン処理系の強度計算書」のうち、「V-2-2-1-1-(1) 廃棄物処理建屋機器ドレンサンプタンク」による。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

- \*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、脚からタンク上端部までの高さである「3810」と記載。記載内容は、設計図書による。
- \*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「制御方法」と記載。
- \*6 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

			変更前	変更後
名 称			電磁ろ過器供給タンク	
種 類	—	たて置円筒形		
容 量	m <sup>3</sup> /個	□ (138* <sup>1</sup> )		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭		
最 高 使 用 温 度	℃	65		
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	5500* <sup>1</sup>	
	胴 板 厚 さ	mm	□ (14.0* <sup>1</sup> )	
	鏡 板 厚 さ	mm	□ (14.0* <sup>1</sup> )	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	5500.0* <sup>1</sup> , * <sup>3</sup> (鏡板中央部内半径)	
			550.0* <sup>1</sup> , * <sup>3</sup> (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 厚 さ	mm	9* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup>	
	入 口 管 台 外 径	mm	114.3* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup>	
	入 口 管 台 厚 さ	mm	6.0* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup>	
	出 口 管 台 外 径	mm	114.3* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup>	
	出 口 管 台 厚 さ	mm	□ (6.0* <sup>1</sup> , * <sup>3</sup> )	
	機器ドレンサンプ水入口 管 台 外 径	mm	76.3* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup>	
	機器ドレンサンプ水入口 管 台 厚 さ	mm	5.2* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup>	
	上澄水入口 (廃樹脂スラリ) 管 台 外 径	mm	60.5* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup>	
	上澄水入口 (廃樹脂スラリ) 管 台 厚 さ	mm	□ (3.9* <sup>1</sup> , * <sup>3</sup> )	
高 さ* <sup>4</sup>	mm	6581* <sup>1</sup> , * <sup>5</sup>		
材 料	胴 板	—	SM41A* <sup>6</sup>	
	鏡 板	—	SM41A* <sup>6</sup>	

変更なし



(続き)

		変更前	変更後
個	数	1	変更なし
漏えい防止のための 制御方法 <sup>*7</sup>	—	液位高による流入 ポンプ自動停止回路	

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*3：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付書類「V-2-2-1 液体廃棄物処理系の強度計算書」のうち、「V-2-2-1-1-(2) 電磁ろ過器供給タンク」による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には、スカートから平板上端部までの高さである「7100」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「制御方法」と記載。

			変更前	変更後
名 称			機器ドレン処理水タンク	
種 類	—	たて置円筒形		
容 量	m <sup>3</sup> /個	□ (154* <sup>1</sup> )		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭		
最 高 使 用 温 度	°C	65		
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	5500* <sup>1</sup>	
	胴 板 厚 さ	mm	□ 14.0* <sup>1</sup> )	
	鏡 板 厚 さ	mm	□ 14.0* <sup>1</sup> )	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	5500.0* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup> (鏡板中央部内半径)	
			550.0* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup> (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 厚 さ	mm	9* <sup>1</sup> , * <sup>3</sup>	
	処 理 水 入 口 管 台 外 径	mm	139.8* <sup>1</sup> , * <sup>3</sup>	
	処 理 水 入 口 管 台 厚 さ	mm	6.6* <sup>1</sup> , * <sup>3</sup>	
	出 口 管 台 外 径	mm	114.3* <sup>1</sup> , * <sup>3</sup>	
	出 口 管 台 厚 さ	mm	□ (6.0* <sup>1</sup> , * <sup>2</sup> )	
高 さ* <sup>4</sup>	mm	7241* <sup>1</sup> , * <sup>5</sup>		
材 料	胴 板	—	SUS304	
	鏡 板	—	SUS304	
個 数	—	2		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法* <sup>6</sup>	—	液位高による流入弁自動切替回路		

変更なし

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付書類「V-2-2-1-1 機器ドレン処理系の強度計算書」のうち、「V-2-2-1-1-(4) 機器ドレン処理水タンク」による。

\*3：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

\*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、スカートから平板上端部までの高さである「7760」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「制御方法」と記載。

			変更前	変更後
名称			プリコートタンク	撤去
種類	類	—	たて置円筒形*1	
容量	量	m <sup>3</sup> /個	<input type="text"/> (5.3*2)	
最高使用圧力		MPa	静水頭*3	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径*4	mm	1800*2	
	胴板厚さ*5	mm	<input type="text"/> (6*2)	
	鏡板厚さ*7	mm	<input type="text"/> (6*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1800*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			180*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	平板(屋根)厚さ	mm	4.5*2, *8	
高さ	mm	2659.5*2, *9		
材料	胴板*10	—	SM41A*11	
	鏡板	—	SM41A*11	
個数		—	1	
漏えい防止のための制御方法		—	—	

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

\*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年8月2日付け建建発第61号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-6図 プリコートタンク構造図」による。

\*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「2300」と記載。記載内容は、昭和49年8月2日付け建建発第61号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-6図 プリコートタンク構造図」による。

\*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

\*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変更前	変更後
名 称				格納容器機器ドレンサンプ
種 類		—		たて置環状扇形
容 量		m <sup>3</sup> /個		0.4 以上 (0.4*)
最 高 使 用 圧 力		MPa		静水頭
最 高 使 用 温 度		℃		105
主 要 寸 法	弧 の 長 さ ( 内 側 )	mm		2142*
	弧 の 長 さ ( 外 側 )	mm		2344*
	幅	mm		237*
	高 さ	mm		1410*
	胴 板 厚 さ	mm		<input type="text"/> (12.0*)
	底 板 厚 さ	mm		<input type="text"/> (12.0*)
	平 板 厚 さ	mm		12.0*
	管 台 外 径 ( 廃 液 出 口 )	mm		89.1*
	管 台 厚 さ ( 廃 液 出 口 )	mm		<input type="text"/> (5.5*)
材 料	胴 板	—		SUS304
	底 板	—		SUS304
個 数		—		1
漏えい防止のための制御方法				—

注記 \* : 公称値を示す。

(8) ろ過装置の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数

			変更前	変更後
名 称			電磁ろ過器	
種 類	—		たて置円筒形*1	
容 量	m <sup>3</sup> /h/個		□(20*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		1.32*3	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	850*2	
	胴 板 厚 さ	mm	□(14.0*2)	
	鏡 板 厚 さ	mm	□(14.0*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	850.0*2, *4 (鏡板中央部内半径)	
			85.0*2, *4 (鏡板隅の丸み半径)	
	高 さ*5	mm	2674*2, *6	
	入 口 管 台 外 径	mm	165.2*2, *4	
	入 口 管 台 厚 さ	mm	□(7.1*2, *4)	
	出 口 管 台 外 径	mm	165.2*2, *4	
	出 口 管 台 厚 さ	mm	□(7.1*2, *4)	
胴 フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	□(82*2, *7)		
材 料	胴 板	—	SUS304	
	鏡 板	—	SUS304	
	胴 フ ラ ン ジ	—	SUS304*4	
個 数	—	2		

変更なし

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「固定床式」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：S I 単位に換算したもの。

\*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 58 年 12 月 13 日付け 58 資庁第 15229 号にて認可された工事計画の添付書類「V-2-2-1-1 機器ドレン処理系の強度計算書」のうち、「V-2-2-1-1-(6) 電磁ろ過器」による。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

- \*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には，ベースプレートから入口管台上端部までの高さである「3470」と記載。記載内容は，設計図書による。
- \*7：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。



			変更前	変更後
名称			超ろ過器	
種類	—		円筒形膜式	
容量	m <sup>3</sup> /h/個		[ ] (6.7 <sup>*1</sup> )	
最高使用圧力	MPa		0.49 <sup>*2</sup>	
最高使用温度	℃		65 <sup>*2</sup>	
主要寸法	外筒外径	mm	34.0 <sup>*1</sup>	
	外筒厚さ	mm	[ ] (1.2 <sup>*1</sup> )	
	全長	mm	3550 <sup>*1, *5</sup>	
	入口管台外径	mm	34.0 <sup>*1, *2</sup>	
	入口管台厚さ	mm	[ ] (4.5 <sup>*1, *2</sup> )	
	出口管台外径 <sup>*6</sup>	mm	34.0 <sup>*1, *2</sup>	
	出口管台厚さ <sup>*6</sup>	mm	[ ] (4.5 <sup>*1, *2</sup> )	
	出口管台外径 <sup>*7</sup>	mm	76.3 <sup>*1, *2</sup>	
	出口管台厚さ <sup>*7</sup>	mm	[ ] (5.2 <sup>*1, *2</sup> )	
	フランジ厚さ	mm	[ ] (18 <sup>*1, *2</sup> )	
材料	外筒	—	SUS304TP, SUS304 <sup>*3</sup>	
	フランジ	—	SUS304 <sup>*2</sup>	
個数	—		6 <sup>*4</sup>	

変更なし

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には、材料「外筒；SUS304TP, SUS304 ろ過膜；[ ]」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には、個数「6（ろ過膜 320 本/個）」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には、外筒Uーベント端部の全長である「2993」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書「超ろ過器収納ラック構造図 ノズル表 B」を示す。

\*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書「超ろ過器収納ラック構造図 ノズル表 C」を示す。

		変更前	変更後		
名 称		廃液フィルタ			
種 類	—	たて置円筒形*1			
容 量*2	m <sup>3</sup> /h/個	<input type="text"/> (50*2, *3)	撤去		
最 高 使 用 圧 力	MPa	1.32*4			
最 高 使 用 温 度	℃	90			
主 要 寸 法	胴 内 径*5	mm		1100*3	
	胴 板 厚 さ*6	mm		<input type="text"/> (14*3)	
	鏡 板 厚 さ*8	mm		<input type="text"/> (14*3)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm		1100*3, *7 (鏡板長径)	
				275*3, *7 (鏡板短径の2分の1)	
	フ ラ ン ジ 厚 さ	mm		<input type="text"/> (50*3, *7)	
	水 入 口 管 台 外 径	mm		216.3*3, *7	
	水 入 口 管 台 厚 さ	mm		<input type="text"/> (8.2*3, *7)	
	水 出 口 管 台 外 径	mm		139.8*3, *7	
水 出 口 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (6.6*3, *7)			
高 さ	mm	3584*3			
材 料	胴 板*9	—		SM41A*10	
	鏡 板	—		SM41A*10	
個 数	—	2			

- 注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形圧カプリコート式（四脚支持）」と記載。
- \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「処理流量（最大） 50 m<sup>3</sup>/h (68.1m<sup>3</sup>/h)」と記載。
- \*3：公称値を示す。
- \*4：S I 単位に換算したもの。
- \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
- \*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
- \*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-1 廃液フィルタおよび床ドレンフィルタ」による。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

\*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

\*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

(9) 主要弁の名称，種類，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，駆動方法，個数及び取付箇所

			変更前*	変更後
名称			G13-F132	変更なし
種類	—		止め弁	
最高使用圧力	MPa		0.52	
最高使用温度	℃		80	
主要寸法	呼び径	—	80 A	
	弁箱厚さ	mm		
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	—		
材料	弁ふた	—		
駆動方法		—	空気作動	
個数		—	1	
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	G13-F132 機器ドレン処理系	
	設置床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 2.00 m	
	溢水防護上の 区画番号	—	—	RB-B1-8
	溢水防護上の 配慮が必要な 高さ	—		EL. 5.38 m 以上

注記 \*：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変 更 前*	変 更 後
名 称			G13-F133	変更なし
種 類	—		止め弁	
最 高 使 用 圧 力	MPa		0.52	
最 高 使 用 温 度	℃		80	
主 要 寸 法	呼 び 径	—	80 A	
	弁 箱 厚 さ	mm		
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 質	弁 箱	—		
	弁 ふ た	—		
駆 動 方 法		—	空気作動	
個 数		—	1	
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	G13-F133 機器ドレン処理系	
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 2.00 m	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	RB-B1-8
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL. 5.38 m 以上

注記 \* : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(10) 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料
—						格納容器機器ドレンサンブ ～ 格納容器機器ドレンサンブ 出口配管分岐点	0.52	105	89.1	7.6*1	SUS316TP
*2 格納容器機器ドレンサンブ 出口配管分岐点 ～ 格納容器機器ドレン サンブスリット	—					*4 格納容器機器ドレンサンブ 出口配管分岐点 ～ 格納容器機器ドレン サンブスリット	0.76*5	200*5	89.1 /89.1 / —	7.6*1 /7.6*1 / —	SUS316TP
	0.52*3	105	89.1	7.6*1	SUS316TP		変更なし 0.76*5	変更なし 200*5	変更なし		
*2 格納容器機器ドレン サンブスリット ～ 格納容器機器ドレン 配管分岐点	0.52*3	105	89.1*25	5.5*1, *25	SUS304TP*25	*4 格納容器機器ドレン サンブスリット ～ 格納容器機器ドレン 配管分岐点	変更なし 0.76*5	変更なし 200*5	変更なし*6		
			89.1	7.6*1	SUS316TP						
	—						0.76*5	200*5	89.1 / — /89.1	7.6*1 / — /7.6*1	SUS316TP
*2 格納容器機器ドレン 配管分岐点 ～ 原子炉格納容器	0.52*3	105	89.1	7.6*1, *6	SUS316TP	変更なし					
*2 原子炉格納容器 ～ 弁 G13-F132	0.52*3	105	89.1*7, *8	7.6*1, *7, *8	STPT42*7, *8	変更なし					
			89.1	7.6*1, *6	SUS316TP						
*2 弁 G13-F132 ～ 原子炉棟機器ドレンサンブ	0.27*3	79	89.1	5.5*1	STPT42	変更なし					
			89.1*25	5.5*1, *25	STPT410*25						
*9 原子炉棟機器ドレン サンブポンブ ～ 廃液収集タンク	1.03*3	65	76.3	5.2*1	STPT42	変更なし					
			89.1	5.5*1	STPT42						
			114.3	6.0*1	STPT42						
			114.3*25	6.0*1, *25	STPT410*25						

(続き)

変 更 前						変 更 後										
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料					
*10 タービン建屋機器ドレン サンプポンプ ～ 廃液収集タンク	1.03*3	65	76.3	5.2*1	STPT42	機器ドレン処理系	変更なし									
			89.1	5.5*1	STPT42											
			114.3	6.0*1	STPT42											
*11 廃棄物処理棟機器ドレン サンプポンプ ～ 廃液収集タンク	1.03*3	65	48.6	5.1*1	STPT42											
			76.3	5.2*1	STPT42											
廃液収集タンク ～ 廃液収集ポンプ	1.03*3	65	114.3	6.0*1	STPT42							変更なし				
*12 廃液収集ポンプ ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	1.42*3	65	114.3	6.0*1	STPT42							変更なし				
			114.3*25	6.0*1, *25	STPT410*25											
	1.32*3	90	114.3	6.0*1	STPT42	—										
			139.8	6.6*1	STPT42											
サージタンク A ～ サージポンプ A	1.03*3	65	114.3	6.0*1	STPT42	変更なし										

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料
機器ドレン処理系	*33 サージポンプ A ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点 (サージポンプ A 側)	1.42*3	65	114.3	6.0*1	STPT42	変更なし				
	サージタンク B ～ サージポンプ B	1.03*3	65	114.3	6.0*1	STPT42	変更なし				
	*34 サージポンプ B ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管 合流点 (サージポンプ B 側)	1.42*3	65	114.3	6.0*1	STPT42	変更なし				
	*13 廃液脱塩器入口管合流点 ～ 廃液脱塩器	1.32*3	90	139.8	5.0*1	SUS304TP	—				
				114.3	4.0*1	SUS304TP					
	*14 廃液脱塩器入口管合流点 ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管 合流点	1.32*3	90	114.3	4.0*1	SUS304TP	変更なし				
				65	114.3	4.0*1					
	*15 廃液脱塩器 ～ 廃液サンプルタンク	1.32*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP	変更なし				
1.03*3				65	114.3	4.0*1					
*16 廃液サンプルタンク ～ 廃液サンプルポンプ	1.03*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP	変更なし					
						機器ドレン処理系	変更なし				
							—				
							1.42	65	114.3	4.0*1	SUS304TP



(続き)

変 更 前						変 更 後							
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料		
機器ドレン 処理系	*17 廃液サンプルポンプ ～ 放射性廃棄物処理系配管取合点 (補給水系)	1.03*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP	機器ドレン 処理系	変更なし					
	凝縮水収集タンク ～ 凝縮水収集ポンプ	1.03*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP		変更なし					
	*24 凝縮水収集ポンプ ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	1.07*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP		変更なし					
		1.42*3	65	114.3	6.0*1	STPT42							
	凝集装置供給タンク ～ 凝集装置供給ポンプ	1.03*3	65	114.3*25	6.0*1, *25	STPT410*25		変更なし					
				60.5	5.5*1	STPT42							
凝集装置供給ポンプ ～ 凝集沈澱装置	1.03*3	65	60.5	5.5*1	STPT42	変更なし							
			60.5	5.5*1	STPT42								
			48.6	5.1*1	STPT42								
			48.6	3.7*1	SUS304TP								

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料
凝集沈澱装置 ～ 廃液収集タンク	1.03*3	65	89.1	4.0*1	SUS304TP	変更なし	1.42	65	114.3	6.0*1	STPT410
			89.1	5.5*1	STPT42						
			89.1*25	5.5*1, *25	STPT410*25						
*18 廃液収集ポンプ吐出管合流点 ～ 電磁ろ過器供給タンク入口管	1.32*3	90	114.3	6.0*1	STPT42	変更なし	1.42	65	114.3	6.0*1	STPT410
1.32*3	65	114.3	6.0*1	STPT42							
*18 電磁ろ過器供給タンク入口管 ～ 電磁ろ過器供給タンク	1.32*3	65	114.3	6.0*1	STPT42	変更なし					
電磁ろ過器供給タンク入口管 分岐点 ～ 廃液フィルタ B 入口管	1.32*3	90	114.3	6.0*1	STPT42	撤去					
廃棄物処理建屋機器ドレン サンプポンプ A ～ 電磁ろ過器供給タンク	1.03*3	65	60.5	5.5*1	STPT42	変更なし	1.42	65	114.3	6.0*1	STPT410
			48.6	5.1*1	STPT42						
			76.3	5.2*1	STPT42						
			76.3	5.2*1	SUS304TP						
廃棄物処理建屋機器ドレン サンプポンプ B ～ 廃棄物処理建屋機器ドレン サンプポンプ A 出口管合流点	1.03*3	65	60.5	5.5*1	STPT42	変更なし					
			48.6	5.1*1	STPT42						
*19 弁 NR24-F007A ～ 電磁ろ過器供給タンク	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS316TP	変更なし					
静水頭		65	60.5	3.9*1	SUS316TP	変更なし					
*20 弁 NR24-F007B ～ 使用済樹脂貯蔵タンク B デカント水出口管合流点	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS316TP	変更なし					

(続き)

変 更 前						変 更 後																							
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料																		
電磁ろ過器供給タンク ～ 機器ドレン樹脂分離器 A	静水頭	65	114.3	6.0*1	SUS304TP	機器ドレン処理系	変更なし																						
			114.3	6.0*1	STPT42																								
			89.1	5.5*1	STPT42																								
			76.3	5.2*1	STPT42																								
	1.32*3	65	48.6	5.1*1	STPT42																								
			76.3	5.2*1	STPT42																								
機器ドレン樹脂分離器 A ～ 電磁ろ過器 A	1.32*3	65	48.6	5.1*1	STPT42							機器ドレン処理系	変更なし																
			76.3	5.2*1	STPT42																								
			165.2	7.1*1	STPT42																								
電磁ろ過器供給タンク出口管 分岐点 ～ 機器ドレン樹脂分離器 B	静水頭	65	89.1	5.5*1	STPT42													機器ドレン処理系	変更なし										
			76.3	5.2*1	STPT42																								
	1.32*3	65	48.6	5.1*1	STPT42																								
			76.3	5.2*1	STPT42																								
機器ドレン樹脂分離器 B ～ 電磁ろ過器 B	1.32*3	65	48.6	5.1*1	STPT42	機器ドレン処理系	変更なし																						
			76.3	5.2*1	STPT42																								
			165.2	7.1*1	STPT42																								
電磁ろ過器 A ～ 超ろ過器供給タンク	1.32*3	65	165.2	7.1*1	SUS304TP																			機器ドレン処理系	変更なし				
			165.2	7.1*1	STPT42																								
			60.5	5.5*1	STPT42																								
			76.3	5.2*1	STPT42																								
			89.1	5.5*1	STPT42																								
電磁ろ過器 B ～ 電磁ろ過器 A 出口管合流点	1.32*3	65	165.2	7.1*1	SUS304TP							機器ドレン処理系	変更なし																
			165.2	7.1*1	STPT42																								
			60.5	5.5*1	STPT42																								
			76.3	5.2*1	STPT42																								

(続き)

変 更 前						変 更 後							
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料		
機器ドレン処理系 超ろ過器供給タンク ～ 超ろ過器 A	静水頭	65	355.6	11.1*1	SUS304TP	機器ドレン処理系	変更なし						
			355.6	11.1*1	STPT42								
			318.5	10.3*1	STPT42								
			216.3	8.2*1	STPT42								
			139.8	6.6*1	STPT42								
	1.32*3	65	89.1	5.5*1	STPT42								
			139.8	6.6*1	STPT42								
			0.49*3	65	139.8							6.6*1	STPT42
					508.0							□ (9.0*1)	SM41A
					34.0							4.5*1	STPT42
超ろ過器供給ポンプ A 入口管 分岐点 ～ 超ろ過器 B	静水頭	65	139.8	6.6*1	STPT42	変更なし							
			1.32*3	65	89.1		5.5*1	STPT42					
	0.49*3	65			139.8		6.6*1	STPT42					
			508.0	□ (9.0*1)	SM41A								
			34.0	4.5*1	STPT42								
							超ろ過器供給ポンプ A 入口管 分岐点 ～ 超ろ過器 C	65	139.8	6.6*1	STPT42	変更なし	
1.32*3	65	89.1	5.5*1	STPT42									
		0.49*3	65	139.8	6.6*1	STPT42							
508.0	□ (9.0*1)			SM41A									
34.0	4.5*1			STPT42									

(続き)

変 更 前						変 更 後											
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料						
超ろ過器供給ポンプ A 入口管 分岐点 ～ 超ろ過器 D	静水頭	65	267.4	9.3*1	STPT42	変更なし											
			139.8	6.6*1	STPT42												
	1.32*3	65	89.1	5.5*1	STPT42												
			139.8	6.6*1	STPT42												
	0.49*3	65	139.8	6.6*1	STPT42												
			508.0	9.0*1	SM41A												
34.0	4.5*1	STPT42															
超ろ過器供給ポンプ D 入口管 分岐点 ～ 超ろ過器 E	静水頭	65	267.4	9.3*1	STPT42							変更なし					
			139.8	6.6*1	STPT42												
	1.32*3	65	89.1	5.5*1	STPT42												
			139.8	6.6*1	STPT42												
	0.49*3	65	139.8	6.6*1	STPT42												
			508.0	9.0*1	SM41A												
34.0	4.5*1	STPT42															
超ろ過器供給ポンプ E 入口管 分岐点 ～ 超ろ過器 F	静水頭	65	139.8	6.6*1	STPT42	変更なし											
			89.1	5.5*1	STPT42												
	1.32*3	65	139.8	6.6*1	STPT42												
			139.8	6.6*1	STPT42												
	0.49*3	65	508.0	9.0*1	SM41A												
			34.0	4.5*1	STPT42												
超ろ過器 A ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42							変更なし					
			89.1	5.5*1	STPT42												
			139.8	6.6*1	STPT42												
			165.2	7.1*1	STPT42												

NT2 補② II R6

機器ドレン処理系

機器ドレン処理系

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	
機器ドレン処理系	超ろ過器 B ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42	機器ドレン処理系	変更なし				
				89.1	5.5*1	STPT42						
				139.8	6.6*1	STPT42						
				165.2	7.1*1	STPT42						
	超ろ過器 C ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42						変更なし
				89.1	5.5*1	STPT42						
				139.8	6.6*1	STPT42						
	超ろ過器 D ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42						変更なし
				89.1	5.5*1	STPT42						
				139.8	6.6*1	STPT42						
	超ろ過器 E ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42						変更なし
				89.1	5.5*1	STPT42						
139.8				6.6*1	STPT42							
超ろ過器 F ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42	変更なし						
			89.1	5.5*1	STPT42							
			139.8	6.6*1	STPT42							
超ろ過器 A ～ 超ろ過器出口集管合流点 *27	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP	変更なし						
			139.8	6.6*1	SUS304TP							
超ろ過器 B ～ 超ろ過器出口集管合流点 *28	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP	変更なし						
			139.8	6.6*1	SUS304TP							
超ろ過器 C ～ 超ろ過器出口集管合流点 *29	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP	変更なし						
			139.8	6.6*1	SUS304TP							

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	
機器ドレン処理系	*30 超ろ過器 D ～ 超ろ過器出口集管合流点	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP	機器ドレン処理系	変更なし				
				139.8	6.6*1	SUS304TP		変更なし				
	*31 超ろ過器 E ～ 超ろ過器出口集管合流点	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP		変更なし				
				139.8	6.6*1	SUS304TP		変更なし				
	*32 超ろ過器 F ～ 超ろ過器出口集管合流点	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP		変更なし				
				139.8	6.6*1	SUS304TP		変更なし				
	超ろ過器出口集管 ～ 機器ドレン処理水タンク A	静水頭	65	216.3	8.2*1	SUS304TP		変更なし				
				139.8	6.6*1	SUS304TP		変更なし				
	*22 弁 NR21-F021 ～ 機器ドレン処理水タンク B	静水頭	65	139.8	6.6*1	SUS304TP		変更なし				
	*23 機器ドレン処理水タンク A ～ 廃液脱塩器入口管合流点	静水頭	65	114.3	6.0*1	SUS304TP		変更なし	変更なし			
89.1				5.5*1	SUS304TP	変更なし						
1.32*3		65	60.5	3.9*1	SUS304TP	-						
			114.3	6.0*1	SUS304TP	-						
90	114.3	6.0*1	SUS304TP	-								
廃液フィルタ B 出口管 ～ 機器ドレン処理水ポンプ出口管 合流点	1.32*3	90	114.3	6.0*1	SUS304TP	撤去						
機器ドレン処理水タンク B ～ 機器ドレン処理水タンク A 出口管合流点	静水頭	65	114.3	6.0*1	SUS304TP	変更なし	変更なし					
			89.1	5.5*1	SUS304TP		変更なし					
	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP		変更なし					
			114.3	6.0*1	SUS304TP		変更なし					

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料
機器ドレン処理系	機器ドレン樹脂分離器 A ～ 使用済樹脂貯蔵タンク B	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP	変更なし				
	機器ドレン樹脂分離器 B ～ 機器ドレン樹脂分離器 A 出口管合流点	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP	変更なし				
	*26 使用済樹脂貯蔵タンク B 入口管分岐点 ～ 使用済樹脂貯蔵タンク C (機器ドレン樹脂分離器側)	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP	変更なし				
	電磁ろ過器 A 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク A	1.32*3	65	165.2	7.1*1	STPT42	変更なし				
	電磁ろ過器 B 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク A 入口管合流点	1.32*3	65	165.2	7.1*1	STPT42	変更なし				
	クラッドスラリタンク A 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク B (電磁ろ過器側)	1.32*3	65	165.2	7.1*1	STPT42	変更なし				
	超ろ過器供給タンク出口管 分岐点 ～ クラッドスラリタンク A 入口管合流点	静水頭	65	60.5	5.5*1	STPT42	変更なし				
		1.32*3	65	60.5	5.5*1	STPT42					
						機器ドレン処理系					



(続き)

変更前						変更後							
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料		
機器ドレン処理系	超ろ過器供給ポンプ A 入口管分岐点 ～ 電磁ろ過器 A 入口管合流点	静水頭	65	114.3	6.0*1	STPT42	機器ドレン処理系	変更なし					
			89.1	5.5*1	STPT42								
		1.32*3	65	60.5	5.5*1	STPT42							
				89.1	5.5*1	STPT42							
				76.3	5.2*1	STPT42							
	電磁ろ過器循環供給ポンプ 出口管分岐点 ～ 電磁ろ過器 B 入口管合流点	1.32*3	65	89.1	5.5*1	STPT42							
				76.3	5.2*1	STPT42							
	クラッドスラリタンク A ～ クラッドスラリ上澄水受タンク	静水頭	65	60.5	3.9*1	SUS316LTP							変更なし
				クラッドスラリタンク B ～ クラッドスラリタンク A 出口管合流点	静水頭	65							60.5
	クラッドスラリ上澄水受タンク ～ クラッドスラリ濃縮器加熱器	静水頭	65	89.1	5.5*1	SUS304TP							変更なし
60.5				3.9*1	SUS304TP								
0.49*3		65	76.3	5.2*1	SUS304TP								
			21.7	2.8*1	SUS304TP								
			120	21.7	2.8*1	SUS316LTP							
				60.5	3.9*1	SUS316LTP							
				165.2	7.1*1	SUS316LTP							
139.8	6.6*1	SUS316LTP											
クラッドスラリ濃縮器加熱器 ～ クラッドスラリ濃縮器	0.49*3	120	114.3	6.0*1	SUS316LTP	変更なし							
			クラッドスラリ濃縮器 ～ クラッドスラリ濃縮器デミスタ	0.49*3	120	139.8	6.6*1	SUS316LTP	変更なし				

(続き)

変更前						変更後						
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
機器ドレン処理系	クラッドスラリ濃縮器デミスタ ～ クラッドスラリ濃縮器復水器	0.49*3	120	139.8	6.6*1	SUS316LTP	機器ドレン処理系	変更なし				
	クラッドスラリ濃縮器復水器 ～ 機器ドレン処理水タンク A 入口管合流点	静水頭	65	27.2	2.9*1	SUS304TP		変更なし				
	クラッドスラリ濃縮器 ～ クラッドスラリ濃縮器循環 ポンプ入口管合流点	0.49*3	120	165.2	7.1*1	SUS316LTP		変更なし				
	クラッドスラリ濃縮器 循環ポンプ入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク A	0.49*3	120	60.5	3.9*1	SUS316LTP		変更なし				
	クラッドスラリタンク A 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク B (クラッドスラリ濃縮器側)	0.49*3	120	60.5	3.9*1	SUS316LTP		変更なし				

- 注記 \*1：公称値を示す。  
 \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器機器ドレンサンプ排出管（格納容器機器ドレンサンプから原子炉棟機器ドレンサンプまで）」と記載。  
 \*3：S I 単位に換算したもの。  
 \*4：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（ベデスタル排水系）と兼用する。  
 \*5：重大事故等時における使用時の値を示す。  
 \*6：エルボにあっては、管と同等以上の厚さのものを選定。  
 \*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 11 月 12 日付け 51 資庁第 12241 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-1-5 液体固体廃棄物処理系配管の規格計算書（Ⅲ-1-3-5）」のうち、「Ⅲ-1-3-5 配管」による。  
 \*8：エルボを示す。  
 \*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉棟機器ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”吐出管（原子炉棟機器ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”より廃液収集タンクまで）」と記載。  
 \*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「タービン建屋機器ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”吐出管（タービン建屋機器ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”より廃液収集タンクまで）」と記載。  
 \*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃棄物処理棟機器ドレンサンプポンプ吐出管（機器ドレンサンプポンプ“A” “B”より廃液収集タンクまで）」と記載。  
 \*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液収集ポンプ吐出管（廃液収集ポンプより廃液フィルタ“A” “B”まで）」と記載。

- \*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液フィルタ“A” “B”より廃液脱塩器まで」と記載。
- \*14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液フィルタ“B”出口管より床ドレンフィルタ出口管まで」と記載。
- \*15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液脱塩器より廃液サンプルタンク“A” “B”まで」と記載。
- \*16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液サンプルポンプ“A” “B”吸込管（廃液サンプルタンク“A” “B”より廃液サンプルポンプ“A” “B”まで）」と記載。
- \*17：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液サンプルポンプ“A” “B”吐出管（廃液サンプルポンプ“A” “B”より復水貯蔵タンクまで）」と記載。
- \*18：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液収集ポンプ出口分岐管より電磁ろ過器供給タンクまで」と記載。
- \*19：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂貯蔵タンク（B）デカント水出口第1元弁より電磁ろ過器供給タンクまで」と記載。
- \*20：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂貯蔵タンク（C）デカント水出口第1元弁より使用済樹脂貯蔵タンク（B）デカント水出口管合流点まで」と記載。
- \*21：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付書類「V-2-2-1-1 機器ドレン処理系の強度計算書」のうち、「V-2-2-1-1-（12）主配管」による。
- \*22：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機器ドレン処理水タンク（A）入口管三方弁より機器ドレン処理水タンク（B）まで」と記載。
- \*23：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機器ドレン処理水タンク（A）より廃液脱塩器入口管まで」と記載。
- \*24：記載の適正化を行う。既工事計画書には「凝縮水収集ポンプ吐出管（凝縮水収集ポンプより廃液収集ポンプ吐出管まで）」と記載。
- \*25：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*26：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂貯蔵タンク（B）入口管分岐点より使用済樹脂貯蔵タンク（C）まで」と記載。
- \*27：記載の適正化を行う。既工事計画書には「超ろ過器（A）より超ろ過器出口集合管まで」と記載。
- \*28：記載の適正化を行う。既工事計画書には「超ろ過器（B）より超ろ過器出口集合管まで」と記載。
- \*29：記載の適正化を行う。既工事計画書には「超ろ過器（C）より超ろ過器出口集合管まで」と記載。
- \*30：記載の適正化を行う。既工事計画書には「超ろ過器（D）より超ろ過器出口集合管まで」と記載。
- \*31：記載の適正化を行う。既工事計画書には「超ろ過器（E）より超ろ過器出口集合管まで」と記載。
- \*32：記載の適正化を行う。既工事計画書には「超ろ過器（F）より超ろ過器出口集合管まで」と記載。
- \*33：記載の適正化を行う。既工事計画書には「サージポンプ“A”吐出管（サージポンプ“A”より廃液収集ポンプ吐出管まで）」と記載。
- \*34：記載の適正化を行う。既工事計画書には「サージポンプ“B”吐出管（サージポンプ“B”より床ドレン収集ポンプ吐出管まで）」と記載。

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (5/31)

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後						
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	機器ドレン処理系	ポンプ	廃棄物処理棟 機器ドレンサンプポンプ	B-1	Non	—	—	変更なし	—	—		
				廃液フィルタ保持ポンプ	B	Non	—	—	—*2	—	—		
				プリコートポンプ	C	Non	—	—	—*2	—	—		
			容器	廃液収集タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
				サージタンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
				凝集装置供給タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
				凝縮水サンプルタンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
				廃棄物処理建屋 機器ドレンサンプタンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
				電磁ろ過器供給タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
				機器ドレン処理水タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
				プリコートタンク	C	クラス3	—	—	撤去	—	—		
			—	—	—	—	—	格納容器機器ドレンサンプ	B-2	クラス3	—	—	
			ろ過装置	電磁ろ過器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
				超ろ過器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
				廃液フィルタ	B	クラス3	—	—	撤去	—	—		
			主要弁	G13-F132	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—		
				G13-F133	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—		
			主配管	—	—	—	—	—	格納容器機器ドレンサンプ ～ 格納容器機器ドレンサンプ 出口配管分岐点	B-1	クラス3	—	—
				格納容器機器ドレンサンプ 出口配管分岐点 ～ 格納容器機器ドレンサンプスリット	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
				格納容器機器ドレンサンプスリット ～ 格納容器機器ドレン配管分岐点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (6/31)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	機器ドレン処理系	主配管	格納容器機器ドレン配管分岐点 ～ 原子炉格納容器	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				原子炉格納容器 ～ 弁 G13-F132	S	クラス2	-	-	変更なし	-	-	-
				弁 G13-F132 ～ 原子炉棟機器ドレンサンプ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	
				原子炉棟機器ドレンサンプポンプ ～ 廃液収集タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	
				タービン建屋 機器ドレンサンプポンプ ～ 廃液収集タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	
				廃棄物処理棟 機器ドレンサンプポンプ ～ 廃液収集タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	
				廃液収集タンク ～ 廃液収集ポンプ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	
				廃液収集ポンプ ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	
				サージタンク A ～ サージポンプ A	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	
				サージポンプ A ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点 (サージポンプ A 側)	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	
				サージタンク B ～ サージポンプ B	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	
				サージポンプ B ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管合流点 (サージポンプ B 側)	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (7/31)

		変 更 前				変 更 後							
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 機器ドレン処理系	主配管	廃液脱塩器入口管合流点 ～ 廃液脱塩器	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	
			廃液脱塩器入口管合流点 ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			廃液脱塩器 ～ 廃液サンプルタンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			廃液サンプルタンク ～ 廃液サンプルポンプ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			廃液サンプルポンプ ～ 放射性廃棄物処理系配管取合点 (補給水系)	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			凝縮水収集タンク ～ 凝縮水収集ポンプ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			凝縮水収集ポンプ ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			凝集装置供給タンク ～ 凝集装置供給ポンプ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			凝集装置供給ポンプ ～ 凝集沈澱装置	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			凝集沈澱装置 ～ 廃液収集タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (8/31)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	機器ドレン処理系	主配管	廃液収集ポンプ吐出管合流点 ～ 電磁ろ過器供給タンク入口管	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—	
				電磁ろ過器供給タンク入口管 ～ 電磁ろ過器供給タンク	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—	
				電磁ろ過器供給タンク入口管分岐点 ～ 廃液フィルタB入口管	B-1	クラス3	—		撤去	—	—	
				廃棄物処理建屋機器ドレン サンプポンプA ～ 電磁ろ過器供給タンク	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—	
				廃棄物処理建屋機器ドレン サンプポンプB ～ 廃棄物処理建屋機器ドレン サンプポンプA 出口管合流点	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—	
				弁 NR24-F007A ～ 電磁ろ過器供給タンク	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—	
				弁 NR24-F007B ～ 使用済樹脂貯蔵タンク B デカント水出口管合流点	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—	
				電磁ろ過器供給タンク ～ 機器ドレン樹脂分離器 A	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—	
				機器ドレン樹脂分離器 A ～ 電磁ろ過器 A	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—	
				電磁ろ過器供給タンク出口管 分岐点 ～ 機器ドレン樹脂分離器 B	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—	
				機器ドレン樹脂分離器 B ～ 電磁ろ過器 B	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—	

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (9/31)

		変 更 前				変 更 後								
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1			
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	機器ドレン処理系	主配管	電磁ろ過器 A ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	
				電磁ろ過器 B ～ 電磁ろ過器 A 出口管合流点	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
				超ろ過器供給タンク ～ 超ろ過器 A	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
				超ろ過器供給ポンプ A 入口管分岐点 ～ 超ろ過器 B	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
				超ろ過器供給ポンプ A 入口管分岐点 ～ 超ろ過器 C	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
				超ろ過器供給ポンプ A 入口管分岐点 ～ 超ろ過器 D	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
				超ろ過器供給ポンプ D 入口管分岐点 ～ 超ろ過器 E	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
				超ろ過器供給ポンプ E 入口管分岐点 ～ 超ろ過器 F	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
				超ろ過器 A ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
				超ろ過器 B ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—



表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (10/31)

		変更前				変更後						
設備区分	系統名	機器区分	名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 機器ドレン処理系	主配管	超ろ過器 C ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス 3			変更なし			-	-
			超ろ過器 D ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス 3			変更なし			-	-
			超ろ過器 E ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス 3			変更なし			-	-
			超ろ過器 F ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス 3			変更なし			-	-
			超ろ過器 A ～ 超ろ過器出口集管合流点	B-1	クラス 3			変更なし			-	-
			超ろ過器 B ～ 超ろ過器出口集管合流点	B-1	クラス 3			変更なし			-	-
			超ろ過器 C ～ 超ろ過器出口集管合流点	B-1	クラス 3			変更なし			-	-
			超ろ過器 D ～ 超ろ過器出口集管合流点	B-1	クラス 3			変更なし			-	-
			超ろ過器 E ～ 超ろ過器出口集管合流点	B-1	クラス 3			変更なし			-	-
			超ろ過器 F ～ 超ろ過器出口集管合流点	B-1	クラス 3			変更なし			-	-
			超ろ過器出口集管 ～ 機器ドレン処理水タンク A	B-1	クラス 3			変更なし			-	-
			弁 NR21-F021 ～ 機器ドレン処理水タンク B	B-1	クラス 3			変更なし			-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (11/31)

		変 更 前				変 更 後							
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	機器ドレン処理系	主配管	機器ドレン処理水タンク A ～ 廃液脱塩器入口管合流点	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	
				廃液フィルタ B 出口管 ～ 機器ドレン処理水ポンプ 出口管合流点	B-1	クラス 3	—	—	撤去	—	—	—	—
				機器ドレン処理水タンク B ～ 機器ドレン処理水タンク A 出口管合流点	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
				機器ドレン樹脂分離器 A ～ 使用済樹脂貯蔵タンク B	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
				機器ドレン樹脂分離器 B ～ 機器ドレン樹脂分離器 A 出口管合流点	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
				使用済樹脂貯蔵タンク B 入口管分岐点 ～ 使用済樹脂貯蔵タンク C (機器ドレン樹脂分離器側)	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
				電磁ろ過器 A 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク A	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
				電磁ろ過器 B 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク A 入口管合流点	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
				クラッドスラリタンク A 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク B (電磁ろ過器側)	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
				超ろ過器供給タンク 出口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク A 入口管合流点	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (12/31)

		変 更 前				変 更 後							
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 機器ドレン処理系	主配管	超ろ過器供給ポンプ A 入口管分岐点 ～ 電磁ろ過器 A 入口管合流点	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	
			電磁ろ過器循環供給ポンプ 出口管分岐点 ～ 電磁ろ過器 B 入口管合流点	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリタンク A ～ クラッドスラリ上澄水受タンク	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリタンク B ～ クラッドスラリタンク A 出口管合流点	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリ上澄水受タンク ～ クラッドスラリ濃縮器加熱器	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリ濃縮器加熱器 ～ クラッドスラリ濃縮器	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリ濃縮器 ～ クラッドスラリ濃縮器デミスタ	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリ濃縮器デミスタ ～ クラッドスラリ濃縮器復水器	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリ濃縮器復水器 ～ 機器ドレン処理水タンク A 入口管合流点	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリ濃縮器 ～ クラッドスラリ濃縮器循環 ポンプ入口管合流点	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (13/31)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備	液体廃棄物 処理系	機器ドレン 処理系	主配管	クラッドスラリ濃縮器 循環ポンプ入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク A	B-1	クラス 3	—	変更なし	—	—	—	—
				クラッドスラリタンク A 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク B (クラッドスラリ濃縮器側)	B-1	クラス 3	—		—	—		

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (31/31)

			変 更 前				変 更 後					
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
堰その他の設備	-	原子炉格納容器本体外に設置される流体状の放射性廃棄物を内包する容器からの流体状の放射性廃棄物の施設外への漏えいを防止するために施設する堰	キャスク搬出入用出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			サイトバンカトラックエリア出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			廃棄物処理建屋機器搬出入用出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			雑固体ドラム搬出入用出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			ドラム搬入室出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			廃棄物処理建屋出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			焼却設備機器搬出入用出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			連絡配管路出入口 (中廊下(二階))	B	-	-	-	撤去	-	-	-	-
			サイトバンカ非常用出入口	B	-	-	-	撤去	-	-	-	-
			連絡配管路出入口 (廃棄物処理棟ハッチ室(二階))	B	-	-	-	撤去	-	-	-	-

注記 \*1: 表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「5 原子炉本体の基本設計方針、適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。

\*2: 撤去対象設備であるため記載を削除する。